

## 属名における性の研究

### (1) -on に終わる動物と植物の属名

平嶋 義宏

#### はじめに

生物の学名は、ラテン語由来であると否とに拘らずラテン語とみなされる。また、ウイルスを除く生物すなわち動物、植物と細菌の種 (species) の学名は、属名と種名 (種小名, 種形容語) を組み合わせた二名式で表現される。学名に関するこれらの基本的事項は、国際動物命名規約、国際植物命名規約と国際細菌命名規約の規定によるものである。

上記の3つの命名規約は、例外なく第1語の属名はラテン語の主格の名詞である、と定めている。このことは、属名には性 (gender) が生じ、一つ一つの属名は男性か女性か中性かのいずれかである、ということになる。

属名に性があるということは、実は厄介な問題が生ずることとなる。分類学者は、まず当面する属名の性を知らねばならない上に、結合される種名 (種小名, 種形容語) が形容詞であれば、その語尾は属名の性に一致させねばならない。種名 (種小名, 種形容語) が形容詞か名詞かを判定する必要もある。また、新属名を創設する学者は、命名規約のルールに従ってその属名の性を指定せねばならない。

このようなことは分類学者の常識であり義務であるが、現在、世界中の生物の学名が命名規約通りに常に正しく用いられているかという点決してそうではない。有名な植物の属名でさえ性が曖昧になっているものがある。例えばわが国では庭園木として著名なマユミとかニシキギの属名がその一つである [文献 (4) (6) を参照]。

属名の性は、その語尾をみれば判定できるものもある。例えば -a, -ia, -itis に終わるものは女性, -us, -ius,

-(i)tes に終わるものは男性, -um, -ium, -idium, -ion や -idion に終わるものは中性である。

また、古典語の名詞をそのまま用いた属名やそれを後節とする複合語の属名はその古典語の性をとる。例えばギリシア語で「木」を意味する *dendron* (δένδρον) は中性名詞であり、この語を後節とする属名例えば植物のツツジやシャクナゲの *Rhododendron* (バラ色の花をつける木, の意) は中性名詞である。

ところが、-on に終わるギリシア語の名詞は中性ばかりでなく男性名詞や女性名詞もある。さらに厄介なことに -on に終わるギリシア語の形容詞もあり、これを採用した属名も現に存在している。また、属名の造語法は多様であり、古典語の動詞から造語した属名もある。従って -on に終わる属名の性の判定には慎重な考慮が必要である。

本論文では、動物と植物の -on に終わる属名を取り上げ、その性を考察することとする。紙数の関係で、ここに取り上げる動物は昆虫のみとし、植物は木本や草本などの高等植物に限る。

なお、参考のために、引用した属名の語源の解説や命名の由来も述べておく。

#### (1) 植物の属名で -on に終わるもの

ここで取り上げる植物の属名は、文献 (1) と (7) によった。

##### (1) 神話上の名を採用した属名

*Endymion* (男性) < *Ενδυμίων* (男性) に因む。Diana 女神に愛された美青年。本属は、ユリ科。現在は *Hyacinthoides* 属のシノニムとされている。

(2) ギリシア語の単純な名詞を採用した属名

- (a) Cotyledon (女性) < *κοτυληδών* (女性) 碗型のくぼみ. 本植物の形態的特徴に因む. 南アフリカ産の有毒植物. ベンケイソウ科.
- (b) Croton (男性) < *κροτών* (男性)
- (1) ダニ, (2) トウゴマ. この属名は, トウゴマのギリシア名を採用したものであるが, この植物の種子がダニに似ているための命名という説もある. クロトンは観葉植物で, 変葉木ともいう. トウダイグサ科.
- (c) Memecylon (中性) < *μημέκυλον* (中性). イチゴの実. ラテン語でも *mēmecylon* という. ソメモノコメツブノボタン(ノボタン科). スマトラ島産.

(3) ギリシア語の名詞を後節とする複合語の属名

- (a) -axon (男性) < *ἄξων* (男性) 車軸.

Arthraxon コブナグサ (小鮎草) (イネ科). 前節は *arthron* (*ἄρθρον*) 関節.

- (b) -caryon (中性) < *κάρυον* (中性) 堅果.

Ophiocaryon オフィオカリオン (アワブキ科). 南米 (ギアナ) 産. 前節は *ophis* (*ὄφις*) 蛇.

- (c) -centron (中性) < *κέντρον* (中性) 尖ったもの, 槍の穂先.

Heterocentron ヘテロセントロン (ノボタン科). 前節は *heteros* (*ἕτερος*) 異なった.

Tetracentron テトラケントロン (テトラケントロン科). 本植物の詳細は不明. 前節は *tetra-* (*τετρα-*) 四.

- (d) -chiton (男性) < *χιτών* (男性) 肌着.

Brachychiton ブラキキトン (アオギリ科). 前節は *brachys* (*βραχύς*) 短い. オーストラリア産.

Lysichiton ミズバショウ (サトイモ科). わが国の寒地で美しい花を開く. 前節は *lysis* (*λύσις*) 解放.

Rhodochiton ロードキトン (ゴマノハグサ科). 英名 Tunic cloak. 前節は *rhodon* (*ῥόδον*) バラ.

- (e) -codon (男性) < (*κώδων*) (男性) 鈴.

Platycodon キキョウ (キキョウ科). 古くから日本人に愛されている秋草の代表的な植物. 前節は *platys* (*πλατυς*) 幅広い, 平たい.

Schizocodon イワカガミ (イワウメ科). 山草または高山植物として全国に生育. 前節は *schizō* (*σχίζω*) 割る, 裂く.

- (f) -dendron (中性) < *δένδρον* (中性) 木.

Clerodendron クサギ (クマツツラ科). 前節は *klēros* (*κλήρος*) 神託. スリランカではクサギの2種を「幸運の木」と「不幸の木」と呼んでいるらしい.

Elaeodendron エラエオデンドロン (ニシキギ科). 前節は *elaia* (*ἐλαία*) オリーブの樹.

Halimodendron ハリモデンドロン (マメ科). 前節は *halimos* (*ἅλιμος*) 海の. 英名を Salt tree という. 中央アジア産.

Kurugiodendron クルギオデンドロン (クロウメドキ科). 西インド諸島産. 材は重く, 水に浮かない. 前節の語源は不詳.

Liriodendron ユリノキ (モクレン科). 北米と中国原産の大木. 英名を Tulip tree という. 花の形から. 前節は *leirion* (*λείριον*) 百合. ワシントンの国会議事堂前の広場のユリノキは見事である.

Phellodendron キハダ (ミカン科). *phellos* (*φελλός*) コルク. 樹皮は健胃整腸薬として著名. 厚いコルク層がある. ただし, 商業用のコルクはコルクガシ *Quercus suber* からとる.

Philodendron フィロデンドロン (サトイモ科). *phileō* (*φιλέω*) 愛する. ヒトデカズラともいう. ブラジル原産.

Pilgerodendron ホワイトアラス (ヒノキ科). 南米産. 前節は「毛を生ずる」の意で, (ラ) *pilus* (毛髪) と (ラ) *gerō* (生ずる) の複合語. この属名はラテン語とギリシア語の混成名.

Rhododendron ジャクナゲ, ツツジ (ツツジ科). *rhodon* (*ῥόδον*) バラ. 「バラ色の花をつける木」の意である. 実は *rhododendron* (*ῥόδοδενδρον*) はキョウチクトウあるいはジャクナゲのギリシア古名.

Scirpodendron スキルポデンドロン (カヤツリグサ科). 熱帯産. 前節はイグサのラテン古名 scirpus から. この属名も混成名.

Sequoiadendron セコイアデンドロン (スギ科). セカイヤオスギともいう. カリフォルニア産の世界最長寿 (約4000年) の大木. 前節は Cherokee 語の音節文字表を考案したアメリカインディアンの学者 Sequoiah (1770-1843) に因む.

Trochodendron ヤマグルマ (ヤマグルマ科). trochos (τροχός) 車輪. おしべと子房が車状につく. 日本と近隣地域の特産種.

(g) -geron (男性) < γέρων (男性) 老人.

Erigeron ヒメジョオン (キク科). (ギ) eri- は強意の接頭辞.

(h) -geton (男性) < γείτων (男性) 隣人.

Aponogeton レースソウ (レースソウ科). ケープヒルムシロともいう. 英名 Cape pondweed. 前節はイタリアの Aquae Aponi にある治療効果のある温泉のラテン名 Aponus から. 文献 (1) に「ギリシア語の水を意味するアポン apon から」と説明があるのは誤り.

Potamogeton ヒルムシロ (ヒルムシロ科). 英名 Pondweed. 前節は potamos (ποτάμος) 河. 実は ποταμογείτων はヨーロッパ産のヒルムシロのギリシア古名である. 従ってこの名は ροδοδενδρον 同様に上記の (2) にあげるべきものであるが, 便宜上この (3) に示した.

(i) -leion (男性) < λείων (男性) ライオン = leōn (λέων).

Hololeion スイラン (キク科). タンポポ dandelion に似て葉が全縁であるための命名といわれている. 前節は holos (ὅλος) 完全な.

(j) -lirion (中性) < λείριον (中性) 百合.

Dasyllirion ダシリリオン (リュウゼラン科). 前節は dasys (δάσος) 毛深い, 厚い.

Japonolirion オゼソウ (ユリ科). 日本特産で, 1属1種. 前節は「日本の」.

Ixiolirion イクシオリリオン (ヒガンバナ科). 前節は Ixia 属 < ἰξία 植物の1種の古名.

Leucolirion テッポウユリ節 (属名ではなくグループ名) (ユリ科). 前節は leukos (λευκός) 白い.

Notholirion ノソリリオン (ユリ科). 前節は nothos (νόθος) 似て非なる, 卑しい.

Protolirion サクライソウ (ユリ科). 発見当初は日本特産の珍種とされた. 前節は prōtos (πρώτος) 最初の, 第一の.

Streptolirion アオイカズラ (ツククサ科). 前節は streptos (στρέπτός) 捻れた.

(k) -mecon (女性) < μέκων (μήκων) (女性) ケシ, ケシの実.

Dendromecon デンドロメコン (ケシ科). 英名 Tree poppy.

Eomecon エオメコン (ケシ科). 英名 Snow poppy. 前節は eōs (ἠώς) あけぼの.

Hylomecon ヒロメコン (ケシ科). 前節は hylē (ὕλη) 森.

(l) -nerion (中性) < νήριον (中性) キョウチクトウ.

Chamaenerion ヤナギラン (アカバナ科). 前節は chamai (χαμαί) 地上に. 植物学ではこの語は「背が低い」という意味に用いられている.

(m) -odon (男性) < ὀδών (男性) 歯.

Decodon デコドン (ミソハギ科). 英名 Swamp loosestrife. 前節は deka (δέκα) 10の.

Leontodon レオントドン (キク科). 前節は leōn (λέων, 属格 leontos) ライオン. ギザギザのある葉をライオンの歯にたとえたもの. 英名 Dandelion (dent de lion).

Strongylodon ストロンギロドン (マメ科). 前節は strongylos (στρογγύλος) 円い.

(注) コケ類や菌類にも -odon に終わる複合語の属名が多い. 例えば, Anomodon (ἄνομος 無法の), Ceratodon (κέρας 連結形 κερᾶτο- 角), Climacodon (κλίμαξ 梯子), Leucodon (λευκός 白い), Sarcodon (σαρξ 肉).

(n) -oon (中性) < ὄον (中性) 卵.

Dioon ディオオン (ソテツ科). 二つの胚珠 (卵) をつけるための命名. メキシコの特産.

(o) -persicon (中性) < περσικόν (中性) 桃.

- Lycopersicon トマト (ナス科). 前節は lykos (λύκος) 狼. (注)似た綴りの lykopersion (λύκόπερσιον) はエジプト産のヒヨス (ナス科) のギリシア古名.
- (p) -petalon (中性) < πέταλον (中性) 葉.  
Schizopetalon スギゾペタロン (アブラナ科). 前節は σχίζω 裂く.
- (q) -phyllon (中性) < φύλλον (中性) 葉.  
Stigmaphyllon スティグマフィロン (キントラノオ科). 前節は stigma (στίγμα) 柱頭. 原意は斑点.  
(注) 造語上は Stigmatophyllon となるのが正しい.
- (r) -pogon (男性) < πάγων (男性) ひげ.  
Andropogon メリケンカルカヤ (イネ科). 英名 Beard grass. 前節は anēr (άνηρ 属格 άνδρός) 男.  
Apogon アポゴン (アヤメ科). 前節の a- は否定の意. (注) 魚のテンジクダイを Apogon といい, 同名である. 同じく男性.  
Calopogon カロポゴン (ラン科). 前節は kalos (καλός) 美しい. 英名を Bog-orchid という. 北米産.  
Centropogon ケントロポゴン (キキョウ科). 前節は kentron (κέντρον) 先のとがったもの, 槍の穂先.  
Cymbopogon オガルカヤ (イネ科). 前節は kymbē (κύμβη) 杯. この仲間から精油シトロネラ油がとれ, 石鹸やクリームなどの香料とする.  
Isopogon イソポゴン (ヤマモガシ科). 前節は isos (ίσος) 等しい.  
Ophiopogon ジャノヒゲ (ユリ科). この属名は和名のジャノヒゲをギリシア語に直したもの. ophis (όφις) 蛇.  
Polypogon ヒエガエリ (イネ科). 前節は polys (πολύς) 多い.  
Spodiopogon オオアブラススキ (イネ科). 前節は spodios (σποδιος) 灰色の.  
Tragopogon トラゴポゴン (キク科). 前節は tragos (τράγος) 山羊. 英名 Goatsbeard.  
Tripogon フクロダガヤ (イネ科). 属名は「三つのひげ」の意.
- (s) -siphon (男性) < σίφων (男性) サイフォン, 管.  
Orthosiphon ネコノヒゲ (シソ科). 前節は orthos (όρθος) 真っ直ぐな. 利尿薬として著名.
- (t) -stemon (男性) < στήμων (男性) 糸. 植物学では雄しべ.  
Callistemon ブラシノキ (フトモモ科). 前節は kallos (κάλλος) 美.  
Eriostemon エリオステモン (アカネ科). 前節は erion (έριον) 羊毛.  
Mitrastemon ヤッコソウ (ラフレシア科). 前節は mitra (μίτρα) 帯, ヘアバンド.  
Pentstemon イワブクロ (ゴマノハグサ科). 前節は pente (πέντε) 5 の.  
Platystemon プラティステモン (ケシ科). 前節は platys (πλατύς) 幅広い, 平たい.  
Pogostemon ポゴステモン (シソ科). 前節は pōgōn (πώγων) 髭.  
Trachystemon トラキステモン (ムラサキ科). 前節は trachys (τράχυς) 粗い.
- (u) -xylon (中性) < ξύλον (中性) 木.  
Ceroxylon ケロクシロン (ヤシ科). 前節は kēros (κηρός) 蜂蠟. 英名 Wax palm.  
Claoxylon セキモンノキ (トウダイグサ科). 小笠原諸島産. 前節は klaō (κλάω) 折る, 裂く.  
Erythroxyton コカノキ (コカノキ科). コカインを含む. 南米北西部の原産. (注) この属名の語尾は, Stearn (1994) の本には上記のように -on となっているが, 邦書の文献 (1) には -um となっている. -xylon と -xylum はどちらも中性で, その意味も同じであるが, 学名としてはスペルが違い, どちらかが間違いである.  
Haematoxylon ロックウッド (マメ科). haima (αίμα) 属格 haimatos 血. 心材から紅色染料ヘマトキシリンをとる極めて有用な木. (注) この属名は, 文献 (1) では上記のように -xylon となっているが, 洋書の文献 (7) では -xylum となっている.  
Metroxylon サゴヤシ (ヤシ科). 澱粉をとる有用植物. mētra (μήτρα) 中心部分, 芯; 子宮.  
Myroxylon ミロクシロン (マメ科). myron (μύρον) 香油, 香水. この木の心材には香気がある.

Oroxylon オロクシロン (ノウゼンカズラ科), oros (ὄρος) 山.

Sideroxylon シデロクシロン (アカテツ科), sidēros (σίδηρος) 鉄. 材は非常に固い.

(4) ギリシア語の縮小辞を尾語にもつ属名

(a) -idion (中性) < -ιδιον (中性). この縮小辞は普通は -idium とラテン語化される.

Glochidion カンコノキ (トウダイグサ科), glōchis (γλωχίς) やじり, 矢.

(b) -ion (中性) < -ιον (中性). 普通は -ium とラテン語化される.

Calonyction ヨルガオ (ヒルガオ科). Calonycto- は kalos (καλός 美しい) と nyx (νύξ 夜) の複合語の連結形.

Stenospermaton ステノスペルマティオン (サトイモ科). 前節は stenos (στενός) 狭い. 後節の -spermaton は sperma (σπέρμα 種子) の縮小形.

(5) 主格でないギリシア語の名詞を後節とする属名

(a) -andron (中性) < anēr (ἀνήρ) (男性) 男. この語の属格は andros. 植物学では雄しべの意.

Conandron イワタバコ (イワタバコ科), kōnos (κῶνος) 松毬, 円錐形をしたもの.

(b) -caulon (中性) < kaulos (καυλός) (男性) 茎, 幹.

Eriocaulon ホシクサ (ホシクサ科), erion (ἔριον) 羊毛, 軟毛.

Sarcocaulon サルコカウロン (フウロソウ科), sarx (σάρξ) 肉. 南アフリカの乾燥地に生育. 枝が多肉質.

(c) -pyron (中性) < pyros (πῦρος) (男性) 小麦.

Agropyron カモジグサ (イネ科). 前節は agros (ἀγρός) 畑, 野.

(d) -theon (中性) < theos (θεός) (男性) (女性) 神.

Dodecatheon ドデカテオン (サクラソウ科), dōdeka (δώδεκα) 12の. 英名 Shooting star.

(6) その他の造語法による属名

(a) Acantholimon (中性) アカントリモン (イソマツ科) は akantha (刺) にイソマツの1種のギリシア古名 leimōnion (λεμμωνιον) (中性) の尾語 -ion を省いて結合した属名.

(b) Antigonon (中性) アンティゴノン (タデ科) はタデの1種のギリシア古名 polygōnon (πολύγωνιον) (中性) の後節を用い, anti- (向かい合って) と結合して作った属名.

(7) 意味不明の属名

次の2属は語源不詳で意味不明である. しかし, その性は明らかにされている.

Aichryson (中性), Ipheion (中性).

(II) 昆虫の属名で -on に終わるもの

ここで取り上げた昆虫の属名は文献 (5) によった.

(1) 古代人の名を採用した属名

(a) Agathon (男性) < Ἀγάθων (男性) アテネの悲劇詩人. ヤマトアミカ (アミカ科, 双翅目).

(b) Cercyon (男性) < Κερκυών (男性) Eleusis にいた有名な盗賊. ケシガムシ (ガムシ科, 甲虫目).

Nipponocercyon モンケシガムシ (ガムシ科, 甲虫目). 「日本の *Cercyon* 属」の意.

(c) Lacon (男性) < Λάκων (男性) Lakonike の人. サビコメツキ (コメツキムシ科, 甲虫目).

(d) Phaedon (男性) < Φαίδων (男性) 男性名. ダイコンハムシ (ハムシ科, 甲虫目).

(e) Sarpedon (男性) < Σαρπηδών (男性) Lucia の王. エダヒゲコメツキダマシ (コメツキダマシ科, 甲虫目).

(2) ギリシア語の単純な名詞を採用した属名

- (a) Anthedon (女性) < ἀνθηδών (女性) ミツバチ (蜜蜂). アメリカ産花蜂の1属であるが, 現在は使用されない.  
Synanthedon (女性) コスカシバ (スカシバガ科, 鱗翅目). スカシバが蜂に似ているための命名. syn- (συν-) と共に.
- (b) Apion (中性) < ἄπιον (中性) セイヨウナシ (の樹). ホソクチゾウムシ (ホソクチゾウムシ科, 甲虫目). 形態の類似からの命名.
- (c) Betarmon (男性) < βητάριμων (男性) 踊り手. 外国産甲虫の1属.  
Parabetarmon (男性) ヒメコナガコメツキ (コメツキムシ科, 甲虫目). para- (παρα-) 傍らに, 近くに.
- (d) Colon (中性) < κóλον (中性) 結腸, κώλον (中性) 四肢, 脚. ヒゲプトチビシテムシ (ヒゲプトチビシテムシ科, 甲虫目).  
Odontocolon (中性) アシプトマルズオナガヒメバチ (脚太円頭尾長姫蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目).  
Dolichocolon (中性) コマスヒゲナガハリバエ (コマス髭長針蠅の意) (ヤドリバエ科, 双翅目).
- (e) Cyphon (男性) < κύφων (男性) (1) 曲がったくびき, (2) 罪人の首をはさむさらし台, (3) さらにさらされるような悪党. チビマルハナノミ (チビ円花蚤の意) (マルハナノミ科, 甲虫目).  
Prionocyphon (男性) セダカマルハナノミ (背高円花蚤の意) (マルハナノミ科, 甲虫目). πρίων 鋸.
- (f) Ichneumon (男性) < ἰχνεύμων (男性) (1) エジプト産のマンガース, (2) ジガバチの1種. 原意は追跡者. キバラヒメバチ (黄腹姫蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目).  
Barichneumon (男性) シロコブヒメバチ (白瘤姫蜂の意). barys (βαρύς) 重い.  
Cratichneumon (男性) フタスジヒメバチ (二条姫蜂の意). kratos (κράτος) 力, 強さ.  
Ctenichneumon (男性) クシヒメバチ (櫛姫蜂の意). kteis (κτεῖς) 属格 ktenos 櫛.  
Intermedichneumon (男性) チュウカンヒメバチ (中間姫蜂の意). (ラ) intermedius 中間の. 混成名の属名.  
Melanichneumon (男性) クロヒメバチ. melas (μέλας) 黒い.  
Orgichneumon (男性) チシマヒメバチ (千島姫蜂の意). orgē (ὀργή) 気性, 激情.  
Protichneumon (男性) トワダヒメバチ (十和田姫蜂の意). prōtos (πρώτος) 第一の, 最初の.  
Spilichneumon (男性) シロヨトウヤドリヒメバチ (白夜盗寄生姫蜂の意). spilos (σπίλος) 斑点.  
Stenichneumon (男性) イワテホソヒメバチ (岩手産の細姫蜂の意). stenos (στενός) 細い.  
Vulgichneumon (男性) アワヨトウヤドリヒメバチ (粟夜盗寄生姫蜂の意). (ラ) vulgus 民衆.
- (g) Metopon (中性) < μέτωπον (中性) 額, 前面. 外国産の蜂の1属.  
Allometopon (中性) クチキバエ (朽木蠅の意) (クチキバエ科, 双翅目). allos (ἄλλος) 他の.  
Craspedometopon (中性) ネグロミズアブ (根黒水虻の意) (ミズアブ科, 双翅目). kraspedon (κράσπεδον) 縁, 端.
- (h) Pemphredon (女性) < πεμφρηδών (女性) 蜂の1種. アリマキバチ (アリマキ=アブラムシを狩る蜂の意) (アナバチ科, 膜翅目).
- (i) Pycnarmon (男性) < πυκνάρμων (男性) 適合. マエモンノメイガ (前紋野螟蛾の意).
- (j) Sepedon (女性) < σπηδών (女性) 腐敗. ヒゲナガヤチバエ (髭長谷地蠅の意) (ヤチバエ科, 双翅目).
- (k) Terthron (中性) < τέρθρον (中性) 端. セスジウンカ (背条ウンカ) (ウンカ科, 双翅目). (注) ウンカに浮塵子をあてるのは間違いである (平嶋, 1965).
- (l) Xoanon (中性) < ξόανον (中性) 像, 木像. トドマツノキバチ (椴松の樹蜂の意) (キバチ科, 膜翅目).

(3) ギリシア語の名詞を後節とする複合語の属名

- (a) -arthron (中性) ἄρθρον (中性) 関節.

- Triarthron タマキノコムシ (玉茸虫の意) (タマキノコムシ科, 甲虫目). tri- (τρι-) 三の。
- (b) -centron (中性) < κέντρον (中性) 先の尖ったもの, 槍の穂先。  
Alacentron ホソクチゾウムシ *Apion* の1亜属 (ホソクチゾウムシ科, 甲虫目). (ラ) ala 翼。
- (c) -dendron (中性) < δένδρον (中性) 木。  
Nosodendron ヒメトゲムシ (姫刺虫の意) (ヒメトゲムシ科, 甲虫目). noseō (νοσέω) 病む。  
Trypodendron ザイノキクイムシ (木材の木喰虫の意) (キクイムシ科, 甲虫目). trypaō (τροπάω) 孔を穿つ; trypē (τρούπη) 孔。
- (d) -entomon (中性) < έντομον (中性) 昆虫. 複数は entoma。  
Eosentomon カマアシムシ (鎌足虫の意) (カマアシムシ科, カマアシムシ目). eōs (ήώς) 曙。  
Filientomon クシカマアシムシ (櫛鎌足虫の意) (クシカマアシムシ科, カマアシムシ目). (ラ) filum 糸. 混成名の学名。  
Fujientomon フジカマアシムシ (富士山の鎌足虫の意) (ヒメカマアシムシ科, カマアシムシ目)。  
Hinomotentomon ヒノモトカマアシムシ (日本鎌足虫の意) (ヒメカマアシムシ科, カマアシムシ目)。  
Nippoentomon ヨシムシ (クシカマアシムシ科, カマアシムシ目). 属名の前節は「日本」, 和名は吉井良三博士に因む。  
Sinentomon ヨロイカマアシムシ (鎧鎌足虫の意) (ヨロイカマアシムシ科, カマアシムシ目). 属名は「中国のカマアシムシ」の意。  
Yamatentomon ヤマトカマアシムシ (大和鎌足虫の意) (クシカマアシムシ科, カマアシムシ目)。
- (e) -etron (中性) < ήτρον (中性) 腹。  
Gymnaetron コバンゾウムシ (小判型の象鼻虫の意) (ゾウムシ科, 甲虫目). gymnos (γυμνός) 裸の。  
Mecetron アメバチ (鉛色の蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目). mēkos (μηκος) 長さ, 高さ。
- (f) -geton (男性) < γείτων (男性) (女性) 隣人。  
Oreogeton セダカオドリバエ (背高踊蠅の意) (オドリバエ科, 双翅目). oros (όρος) 山。  
Pheidologeton ヨコヅナアリ (横綱蟻の意) (アリ科, 膜翅目). 前節はオオヅアリ (大頭蟻) *Pheidole* 属から < φειδωλή 大切にすること, 節約すること。  
Telmatogeton イソユスリカ (磯ユスリカの意) (ユスリカ科, 双翅目). telma (τέλμα) 属格 telmatos 池, 沼沢。
- (g) -leon (男性) < λέων (男性) ライオン。  
Dendroleon マダラウスバカゲロウ (斑薄翅カゲロウの意) (ウスバカゲロウ科, 脈翅目). 前節は δένδρον 木。  
Distoleon ヤエヤマウスバカゲロウ (八重山薄翅カゲロウの意) (ウスバカゲロウ科, 脈翅目). distolos (δίστολος) 一組の, 一對の。  
Myrmeleon コウスバカゲロウ (小さいウスバカゲロウの意味) (ウスバカゲロウ科, 脈翅目). myrmēx (μύρμηξ) アリ。  
Microleon テングイラガ (天狗苛蛾の意) (イラガ科, 鱗翅目). μικρός 小さい。
- (h) -leucon (中性) < λευκόν (中性) 白, 白衣。  
Meguroleucon シリプトアブラムシ (尻太アブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目). megas (μέγας) 大きい; oura (ούρά) 尾。  
Uroleucon ヒゲナガアブラムシ (触角の長いアブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目). oura (ούρά) 尾。
- (i) -neuron (中性) < νεῦρον (中性) 筋, 腱, (昆虫学では) 翅脈。  
Pachyneuron コガネコバチ (黄金小蜂の意) (コガネコバチ科, 膜翅目). pachys (παχύς) がっちりした, 厚い, 太い。
- (j) -noton (中性) < νῶτον (中性) 背。  
Trinoton カモハジラミ (鴨に寄生する羽虱の意) (タンカクハジラミ科, ハジラミ目). tri- (τρι-) 三の。

(k) -odon (男性) < ὀδών (男性) 歯.

Aspidophorodon ヤナギアブラムシ (柳に寄生するアブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目). aspis (ἀσπίς) 属格 aspidos 盾. 後節は *Phorodon* 属から (後述).

Ischiodon トゲヒメヒラタアブ (刺姫偏虻の意) (ハナアブ科, 双翅目). ischys (ισχύς) 力, 強さ.

Merodon モモブトハナアブ (腿太花虻の意) (ハナアブ科, 双翅目). mēros (μηρός) 腿.

Microdon アリスアブ (蟻巣虻の意で幼虫がアリの巣に発見される) (ハナアブ科, 双翅目). μικρός 小さい.

Neocnemodon トゲクロコヒラタアブ (刺黒小偏虻の意) (ハナアブ科, 双翅目). νέος 新しい; κνήμη 脛.

Phorodon アサイボアブラムシ (麻疣アブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目). φέρω 運ぶ, 身に付ける.

(l) -plectron (中性) < πλεκτρον (中性) けづめ, 突き棒.

Heteroplectron アシエダトビケラ (足枝トビケラの意) (アシエダトビケラ科, トビケラ目). heteros (ἕτερος) もう一方の, 異なった.

(m) -pogon (男性) < πώγων (男性) 髭.

Atrichopogon ケナシヌカカ (無毛ヌカカの意) (ヌカカ科, 双翅目). atrichos (ἀτρίχος) 無毛の.

Callipogon ウスリーオオカミキリ (カミキリムシ科, 甲虫目). kallos (κάλλος) 美.

Ceratopogon ヌカカ (ヌカカ科, 双翅目). keras (κέρας) 連結形 kerato- 角, 触角.

Cyrtopogon ヒゲボソムシヒキ (細髭ムシヒキの意) (ムシヒキアブ科, 双翅目). kyrtos (κυρτός) 曲がった.

Dipogon ヒゲベッコウ (髭の籠甲色の蜂の意) (ベッコウバチ科, 膜翅目). di- (δι-) 2つの.

Eurypogon ナガハナノミダマシ (長花蚤ダマシの意) (ナガハナノミダマシ科, 甲虫目). eurys (εὐρύς) 幅広い.

Holopogon ホンヒゲボソムシヒキ (本細髭ムシヒキの意) (ムシヒキアブ科, 甲虫目). holos (ὅλος) 完全な.

Lasiopogon ツノケブカムシヒキ (角毛深ムシヒキの意) (ムシヒキアブ科, 双翅目). lasios (λάσιος) 毛深い.

Nemapogon コクガ (穀蛾の意) (ヒロゾコガ科, 鱗翅目). nēma (νήμα) 属格 nematos 糸, (昆虫学では) 触角.

Nematopogon ウスキヒゲナガ (薄黄色髭長蛾の意) (マガリガ科, 鱗翅目). nēma 糸, 触角.

Preneopogon ナカキトガリノメイガ (中黄色尖り野螟蛾の意) (メイガ科, 鱗翅目). prēnēs (πρηνής) うつ伏せの, (動物の) 背部の.

Pycnopogon ヒゲムシヒキ (髭のムシヒキアブの意) (ムシヒキアブ科, 双翅目). pyknos (πυκνός) 緻密な, 丈夫な.

Stichopogon ツノムシヒキ (角ムシヒキの意) (ムシヒキアブ科, 双翅目). stichos (συχός) 列, 線, 隊列.

(n) -prion (男性) < πρίων (男性) 鋸.

Diprion マツノクロホシハバチ (松黒星葉蜂の意) (マツハバチ科, 膜翅目). di- (δι-) 二つの.

Microdiprion ハクサンマツハバチ (白山松葉蜂の意) (マツハバチ科, 膜翅目). μικρός 小さな.

Neodiprion マツノキハバチ (松の木葉蜂の意) (マツハバチ科, 膜翅目). neo- (νεο-) 新しい.

Nesodiprion マツノミドリハバチ (松緑葉蜂の意) (マツハバチ科, 膜翅目). nēsos (νήσος) 島.

(o) -pteron (中性) < πτερόν (中性) 翼.

Ascodipteron コウモリバエ (蝙蝠蠅の意) (コウモリバエ科, 双翅目). askos (ἀσκός) 皮, 革袋. dipteros (δίπτερος) 双翅の.

Spilopteron ツマグロケンヒメバチ (棲黒剣姫蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目). spilos (σπίλος) 斑点.

(p) -semion (中性) < σημεῖον (中性) しるし, 目印.



Eusemion ツクミトビコバチ (津久見産の跳小蜂の意) (トビコバチ科, 膜翅目). eu- (eu-) 真の, 良い.

Parousemion ヒョウモンカイガラトビコバチ (貝殻虫に寄生する豹紋のある跳小蜂の意) (トビコバチ科, 膜翅目). Para- + *Eusemion*.

(q) -siagon (女性) < *σιᾶγων* (女性) ほほ, あご骨.

Macrosiagon ムモンオオハナノミ (無紋大花蚤の意) (オオハナノミ科, 甲虫目). makros (*μακρός*) 大きな.

(r) -siphon (男性) < *σίφων* (男性) サイフォン, 管.

Acyrtosiphon ヒゲナガアブラムシ (アブラムシ科, 半翅目). 前節の語源不詳.

Aleurosiphon サルトリイバラアブラムシ (アブラムシ科, 半翅目). サルトリイバラに寄生する. aleuron (*ἄλευρον*) 小麦粉. 体に小麦粉のような白い粉をふく.

Chaetosiphon イチゴケナガアブラムシ (苺に寄生する毛長アブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目). chaitē (*χαίτη*) 髪, 毛.

Nectarosiphon ミツアブラムシ (蜜のアブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目). nektar (*νέκταρ*) 神々の飲み物.

(s) -xylon (中性) < *ξύλον* (中性) 木.

Lyctoxylon アラゲヒラタキクイムシ (荒毛偏木喰虫の意) (ナガシンクイムシ科, 甲虫目). Lyktos (*λύκτος*) クレタ島の町の名.

Lymexylon ホソツツシンクイ (細筒芯喰虫の意) (ツツシンクイ科, 甲虫目). lymē (*λύμη*) 汚名, 損害.

Sinoxylon トゲナガシンクイ (刺長芯喰虫の意) (ナガシンクイムシ科, 甲虫目). sinus (*σίνοσ*) 損害.

Trypoxylon ジガバチモドキ (アナバチ科, 膜翅目). ジガバチとは巣の中で立てる音を「似我似我」と解釈した故の名前. trypaō (*τρῦπάω*) 孔を穿つ.

(4) ギリシア語の縮小辞を尾語にもつ属名

(a) -idion (中性) < *-ιδιον* (中性).

この語は普通は *-idium* とラテン語化して用いられる.

Asaphidion メダカチビカワゴミムシ (目が高く矮小で川辺にすむゴミムシの意) (オサムシ科, 甲虫目). 前節は asaphēs (*ἀσαφής*) 不明瞭な, 不確実な.

Bembidion ミズギワゴミムシ (水際ゴミムシの意) (オサムシ科, 甲虫目). bembix (*βέμβιξ*) プンプンという昆虫, 独楽.

(b) -ion (中性) < *-ιον* (中性).

この語は普通は *-ium* とラテン語化されて用いられる.

Cercion クロイトトンボ (イトトンボ科, トンボ目). 「小さい尾」の意で前節は kerkos (*κέρκος*) 尾.

(注) かつて私はこの属名を古代の盗賊 Kercyon に因むと解説したが [文献 (4)], ここに述べるように kerkos の縮小形と解釈するのが妥当と思われるので訂正する.

Chalybion ルリジガバチ (瑠璃色のジガバチの意) (アナバチ科, 膜翅目). chalybs (*χάλυψ*) 鋼鉄. この語の属格は chalybos.

Ophion オオアメバチ (大きな銚色の蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目). ophis (*ὄφις*) 蛇. (注) ophis の縮小形には ophidion がある. なお, この属名はサルディニア産の野生の羊のギリシア古名 ophiōn (*οφίων*) に由来するかも知れない.

Therion コンボウアメバチ (棍棒蝮蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目). thēr (*θήρ*, 野獣) の縮小形 thērion (*θηρίον*) を用いた属名.

Zodion ウスグロメバエ (薄黒目蠅の意) (メバエ科, 双翅目). zōon (*ζῶον*, 生き物, 動物) の縮小辞 zōdion (*ζῶδιον*) を用いた属名.

(c) -ion を尾語とする複合語の属名

Gasteruption コンボウヤセバチ (棍棒瘦蜂の意) (コンボウヤセバチ科, 膜翅目). 「腹が上向きの蜂」の意の命名. gastēr (γαστήρ) 腹. hyptios (ὑπτίος) 仰向けの, 上向きにした.

Laemobothrion ハヤブサハジラミ (単に寄生する羽虱の意) (オオハジラミ科, ハジラミ目). laimos (λαίμος) 喉, 首. bothros (βόθρος) 孔.

Macrostomion カモドキバチ (蚊に似た蜂の意) (コマユバチ科, 膜翅目). makros (μακρός, 大きな) と stoma (στόμα, 口) の複合語.

Monotopion デオネスイムシ (出尾根吸虫の意) (ネスイムシ科, 甲虫目). monos (μόνος) 唯一の, topos (τόπος) 場所.

(5) 主格でないギリシア語の名詞を後節とする属名

次に述べる属名は, *Eriocaulon* などと同様に, ギリシア語の名詞の主格ではなく, その語尾を -on と変形した名詞を後節に用いてある. これは, 文法的にはその名詞の複数属格の形を採用したものと解釈される. これらの属名の性は, 原語の名詞の性をとる, とするのが妥当であろう.

(a) Algon (中性) ムネピロハネカクシ (胸広隠翅虫の意) (ハネカクシ科, 甲虫目) < algos (άλγος) (中性) 苦痛, 苦悩.

(b) Cerylon (男性) カクホソカタムシ (角細肩虫の意) (カクホソカタムシ科, 甲虫目) < kērylos (κηρύλος) (男性) 伝説上の水鳥 (多分カワセミ).

(c) Charmon (中性) コンボウコマユバチ (棍棒小繭蜂の意) (コマユバチ科, 膜翅目) < charma (χάρμα) (中性) 喜び. (注) 語源が charmē (χάρμη) 戦いの喜び, 戦い, とすればこの属名は女性となる.

(d) Cloeon (男性) フタバカゲロウ (双翅蜉蝣の意) (コカゲロウ科, カゲロウ目) < kloios (κλοιός) (男性) 首輪.

(e) Ephoron (男性) オオシロカゲロウ (大白蜉蝣の意) (オオシロカゲロウ科, カゲロウ目) < ephoros (ἐφόρος) (男性) 指揮者.

(f) Pison (男性) ジガバチモドキ (擬ジガバチの意) (アナバチ科, 膜翅目) < pisos (πίσος) (男性) エンドウマメ. 形態の類似による命名.

(g) Tryphon (女性) マルヒメバチ (円姫蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目) < tryphē (τροφή) (女性) 優美さ.

(6) ギリシア語の形容詞と副詞由来の属名

次の属名は, ギリシア語の形容詞の主格を用いたものである.

(a) Dolophron (女性) 和名なし (ヒメバチ科, 膜翅目) < dolóphron 奸計をめぐらす.

(b) Omophron (男性) カワラゴミムシ (河原のゴミムシの意) (ゴミムシ科, 甲虫目) < ómóphron 一つ心の, 一致した. 語頭のhを省略した造語.

次にあげる属名はギリシア語の形容詞と副詞を採用した属名であるが, 主格の形ではなく, 語尾を変形して -on という形にしたものが多い. これも形容詞の複数属格の語尾を採用したものとみなされる. 形容詞や副詞由来の属名の性は, 命名者 (属の創設者) が指定したものが採用されるが, 文法上は, 男性, 女性, 中性のどれに指定してもよい.

(a) Anomalon (中性) コンボウアメバチ (棍棒型の飴色の蜂の意) (ヒメバチ科, 膜翅目) < anómalos 不規則な.

(b) Anteon (男性) カマバチ (鎌蜂の意) (カマバチ科, 膜翅目) < άντην (副詞) 面と向かって.

(c) Agrion (中性) 外国産イトトンボ (イトトンボ科, トンボ目) < άγριος 野生の. 本属名を後節とする日本産のイトトンボには次のものがある.

Aciagrion (中性) ホソミイトトンボ < άκίς 尖ったもの, 矢. この語の正しい連結形は akido- である.

Boniagrion (中性) オガサワライトトンボ < Bonin Islands.

Ceriagrion (中性) ベニイトトンボ < κέρασ 角. この語の正しい連結形は kerato- である.

Coenagrion (中性) キタイトトンボ (北方産のイトトンボの意) < κοινός 普通の.

Mortonagrion (中性) モートンイトトンボ < Morton氏.

Pseudagrion (中性) ナガイトトンボ < ψευδής 嘘の, 偽りの.

なお, -agrion については下記の Podagrion も見られたい.

- (d) Bracon (男性) コマユバチ (小繭蜂の意) (コマユバチ科, 膜翅目) < βραχύς 短い, 小さい.  
 Aphrastobracon (男性) ワモンコマユバチ (輪紋の意) < ἄφραστος 言いあらわせない, 謎の.  
 Euurobracon (男性) ウマノオバチ (馬尾蜂の意) < εὖ- 真の, 良い + οὐρά 尾.  
 Ipoobracon (男性) 和名なし < ἵψ 木喰虫.  
 Stenobracon (男性) 和名なし < στενός 狭い.
- (e) Ceraphron (男性) ヒゲナガクロバチ (触角の長い黒蜂の意) (ヒゲナガクロバチ科, 膜翅目) < κέρασ 触角 + ἄφρων 無感覚の.  
 Kenitoceraphron (男性) 和名なし (ヒゲナガクロバチ科, 膜翅目). 前節の語源不詳.
- (f) Podagrion (中性) オナガアシトコバチ (尾長足太小蜂の意) (アシトコバチ科, 膜翅目) < ποδαγριός 足の痛風の. (注) podo- (脚) + Agrion (野生のもの, の意) とも解釈ができる.
- (h) Praon (中性) 和名なし (コマユバチ科, 膜翅目) < πρᾶος 柔和な.  
 Areopraon (中性) 和名なし (コマユバチ科) < 前節はギリシアの軍神 Ἄρης から.
- (i) Sceliphron (中性) キゴシジガバチ (黄腰ジガバチの意) (アナバチ科, 膜翅目) < σκελιφρός 瘦せた.

(7) ギリシア語の動詞由来の属名

次に述べる属名は, ギリシア語の動詞由来の属名で, 動詞の現在分詞の形を用いたものと解釈される.

- (a) Agrypon (中性) コンボウアメバチ (ヒメバチ科, 膜翅目) < ἀγρυπνέω 起きている, 油断しない.
- (b) Alysson (男性) ツヤバチ (光沢のある蜂の意) (アナバチ科, 膜翅目) < ἀλύσσω 取り乱す, さ迷う.
- (c) -bion < βιώω 生きる.  
 Sitobion (中性) ヒゲナガアブラムシ (触角の長いアブラムシの意) (アブラムシ科, 半翅目) < σίτος 穀物, 食物.  
 Unisitobion (中性) 和名なし (アブラムシ科) < (ラ) uni- 唯一の.
- (e) Diplazon (男性) 和名なし (ヒメバチ科, 膜翅目) < διπλάζω 二倍にする.
- (f) -edon < ἔδω 食べる.  
 Entedon (男性) 和名なし (ヒメコバチ科, 膜翅目) < ἐντός 中に, 内側に. 「内部を喰う蜂」の意の命名.
- (g) Episyron (男性) オオシロフベッコウ (大きな白斑のある鼈甲色の蜂の意) (ベッコウバチ科, 膜翅目) < ἐπισύρω 引きずる. 餌のクモをひきずるの意であろう.
- (h) Helcon (男性) ツノコマユバチ (触角に特徴のある小繭蜂の意) (コマユバチ科, 膜翅目) < ἔλκω 引き寄せる.
- (i) Nysson (男性) ドロバチモドキ (泥蜂に似た蜂の意) (アナバチ科, 膜翅目) < νύσσω 刺す, 突く.
- (j) Phygadeuon (男性) 和名なし (ヒメバチ科, 膜翅目) < φυγαδεύω 追放する.
- (k) -stenon < στένω 嘆く.  
 Panstenon (中性) 和名なし (コガネコバチ科, 膜翅目) < πᾶσ すべての.  
 (注) この後節は stenon (στενός 狭い) に由来する可能性もある.
- (l) -teinon < τείνω 張る, 引き延ばす.  
 Isteinon (男性) ホソバセセリ (セセリチョウ科, 鱗翅目) < ἴσος 同じような, 等しい. 前後翅とも細長く伸びているための命名.

(8) その他の造語法による属名

- (a) Stenocephaloon (中性) ツメボソクビナガムシ (クビナガムシ科, 甲虫目). 後節は kephalōn

(κεφάλων) (男性) 頭の大きい人, 前節は stenos (στενός) 狭い.

(9) ミスによってできた属名

Aparopion (中性) アナキゾウ (ゾウムシ科, 甲虫目) は *Aparopion* の誤りであるが, 命名規約上はこれを訂正して用いることはできない. 多分誤植による. aparoō (ἀπαρόω) 掘り起こす + priōn (πρίων) 鋸. わが国には *Aparopion* を後節とする複合語の属名 *Pentapaparon* (中性) オチバアナキゾウムシが知られている.

(10) 意味不明の属名

Cerotelion (双翅目), Exyston (膜翅目), Lordithon (甲虫目), Menopon (ハジラミ目) (及び本属を後節とする複合語の属名 *Austromenopon*, *Longimenopon*, *Pseudomenopon*), Syzeton (甲虫目).

(III) 考 察

(1) 上述のように, -on に終わる属名は, いろいろな造語法によって出来ていることがわかる. 植物の場合は, (a) 神話上の名を採用した属名, (b) ギリシア語の単純な名詞を採用した属名, (c) ギリシア語の名詞 (主格) を後節とする複合語の属名, (e) 主格ではないギリシア語の名詞を後節とする複合語の属名, (f) その他の造語法による属名, (g) 意味不明の属名, に分類された.

(2) 動物 (昆虫) の場合は, 植物にみられた造語法に加えて, ギリシア語の形容詞, 副詞, 動詞に由来する属名が存在する. これは, 対象とする昆虫の種類数 (属数) が多い上に, 研究者の数も多く, したがって造語法にも多様性がでたためであろう. また, ミスプリントによって生じた属名も存在する.

(3) ギリシア語の形容詞, 副詞, 動詞に由来して語尾が -on に終わる属名や, その他の造語法に由来して語尾が -on に終わる属名の性は, その属名の命名者 (創設者) が決めた性が採用される. 文法上は, 男性, 女性, 中性のどれにも指定できるが, 昆虫の場合, これらの属名は男性と中性が多く, 女性は甚だ少ない.

(4) 複合語の属名の後節に用いられたギリシア語の主格の名詞で, 植物と昆虫で共通するものに次のものがある.

- centron (中性).
- dendron (中性).
- geton (男性).
- odon (男性).
- pogon (男性).
- siphon (男性).
- xylon (中性).

これらの属名の性は, 国際動物命名規約でも国際植物命名規約でも原語の名詞の性をとることになっている. 現実に, 植物と昆虫で違った性が用いられているものはない.

(5) まとめとして, 植物と昆虫の -on に終わる属名の性を分類してみると次の通りである. 意味不明及び造語法不明の属名は除外した.

なお, 植物の属名は末尾に [植物] と示し, 昆虫と植物で同じ後節をもつものは [動・植物] と示した.

(A) ギリシア語の名詞 (主格) あるいは名詞 (主格) を後節とする複合語の属名

[男性]

- Agathon
- axon [植物]
- Betarmon 及び -betarmon
- Cercyon 及び -cercyon

-chiton [植物]  
-codon [植物]  
Croton [植物]  
Cyphon 及び -cyphon  
Endymion [植物]  
-geron [植物]  
-geton [動・植物]  
Lacon  
Ichneumon 及び -ichneumon  
-leion [植物]  
-leon  
-odon [動・植物]  
Phaedon  
-pogon [動・植物]  
-prion  
Pycnarmon  
Sarpedon  
-siphon [動・植物]  
-stemon [植物]

[女性]

Anthedon 及び -anthedon  
Cotyledon [植物]  
-mecon [植物]  
Pemphredon  
Sepedon  
-siagon

[中性]

Apion  
-arthron  
-caryon [植物]  
-centron [動・植物]  
Colon 及び -colon  
-dendron [動・植物]  
Entomon 及び -entomon  
-etron  
-leucon  
-lirion [植物]  
Memecylon [植物]  
Metopon 及び -metopon  
-nerion [植物]  
-neuron  
-noton  
-oon [植物]  
-persicon [植物]

-petalon [植物]  
-phyllon [植物]  
-plectron  
-pteron  
-semion  
Terthron  
Xoanon  
-xylon [動・植物]

(B) ギリシア語の縮小辞を尾語とする属名

[中性]

(a) -idion に終わるもの

Asaphidion  
Bembidion  
Glochidion [植物]

(b) -ion に終わるもの

Calonyction [植物]  
Cercion  
Chalybion  
Gasteruption  
Laemobothrion  
Macrostomion  
Monotopion  
Ophion  
Stenospermation [植物]  
Therion  
Zodion

(C) その他の造語法による属名

参考のために、語源となったギリシア語の名詞、動詞、形容詞などを付記した。

[男性]

Alysson (ἀλλύσσω)  
Anteon (άντην)  
Bracon 及び -bracon (βραχύς)  
Ceraphron (κερας+άφρων)  
Cerylon (κηρυλος)  
Cloeon (κλοιος)  
Diplazon (διπλαζω)  
Entedon (εντος+έδω)  
Ephoron (έφορος)  
Episyron (έπισύρω)  
Helcon (έλκω)  
Isoteinon (ισος+τεινω)

Nysson (νυσσω)  
 Omophron (ὀμόφρων)  
 Phygadeuon (φυγαδεω)  
 Pison (πίσος)

[女性]

Dolophron (δολόφρων)  
 Tryphon (τροφή)

[中性]

Acantholimon [植物] (ἄκανθα+λεμιμιον)  
 Agrion 及び -agrion (ἄγριος)  
 Agropyron (ἀγρός+πύρος)  
 Agrypon (ἀγρυπεω)  
 Algon (ἄλγος)  
 Anomalon (ἀνώμαλος)  
 Antigonon [植物] (ἀντι-+πολύγωνον)  
 -caulon [植物] (καυλός)  
 Eriocaulon (ἔριον)  
 Sarcocaulon (σάρξ)  
 Charmon (χάρμα)  
 Conandron [植物] (κῶνος+ἀνήρ)  
 Dodecatheon [植物] (δώδεκα+θεός)  
 Panstenon (πᾶς+στενω)  
 Podagrion (ποδαγριός)  
 Praon 及び -praon (πράος)  
 Sceliphron (σκελιφρός)  
 Sitobion 及び -bion (βίω)  
 Stenocephaloon (στενός+κεφάλων)

(IV) 検 証

動物学でも植物学でも、形容詞の種名(種小名)は属名の性に一致した語尾を取らねばならない。現実にはこの規則を無視した学名が多く存在することは、すでに私が指摘した通りである[文献(4)]。ここでは、本論で述べた属名の性が正しく認識されているかどうかを検証することにしたい。

植物の場合

(1) Lysichiton (男性)はミズバショウの属名である。本属が男性であることは明白な事実であり、外国の本例えば文献(2)や文献(7)でも男性扱いであるが、邦書例えば文献(1)や文献(3)では中性扱いになっている。これは訂正を必要とする。

(2) Platycodon (男性)はキキョウの属名である。本属も男性であることは明白で、外国の文献(上述)には男性とされているが、邦書(上述)では中性扱いになっている。これも訂正を必要とする。

(3) なお、参考までにユリノキの学名について述べておきたい。ユリノキ属 *Liriodendron* (中性)はアメリカに1種と中国に1種しか原生しない。シナユリノキ *Liriodendron chinense* の種小名は *chinensis* (中国の)中性形であるから、本属は正しく中性と認識されている。

しかしアメリカ産のユリノキ *Liriodendron tulipifera* の種小名を理解するには時間がかかる。種小名が形容

詞とすれば *tulipiferum* とならねばならない。この形容詞の語尾は -fer (男性), -fera (女性), -ferum (中性) と変化するからである。もし名詞として造語されたものであれば *tulipifer* が正しいと思われる。しかし、命名者のリンネは敢えて形容詞の女性形と同じ *tulipifera* を選んで命名した。その理由は不明である。

#### 昆虫の場合

(1) *Agathon* (男性) が邦書で女性扱いになっているのは誤りである。例えばヤマトアミカ *Agathon japonica* の種名は *japonicus* と訂正すべきである。

(2) *Acyrtosiphon* (男性) が邦書で中性扱いになっているのは誤り。例えばヘクソカズラヒゲナガアブラムシ *Acyrtosiphon nipponicum* の種名は *nipponicus* と訂正される。

(3) *Macrosiagon* (女性) は甲虫のムモンオオハナノミの属名であるが、その性に関する邦人学者の見解は不可解であり、結合された種名が男性 (*bipunctatus*) もあれば中性 (*nasutum*) もある。

(4) *Pemphredon* (女性) は蜂のアリマキバチ (アナバチ科) の属名で、文法上は女性であるが、現実には広く男性と用いられている。

(5) *Pycnarmon* (男性) は鱗翅目のノメイガ (野螟蛾) の1属で、文法上は男性であるが、邦書では女性扱いである。

以上述べた属名の性の認識は、分類学者の不注意による誤った解釈の他に、国際的な合意によって文法的に正しい性とは違った性が認められている場合がある。後者については別に論述したい。

#### 参 照 文 献

- (1) 朝日新聞社 (1975~1978) 週刊朝日百科 世界の植物. 120分冊.
- (2) Brickell, C. (ed.) (1989) The Royal Horticultural Society Gardeners' Encyclopedia of Plants and Flowers. 608pp. Dorling Kindersley, London.
- (3) 平凡社 (1981~1989) 日本の野生植物 草本 (3巻), 木本 (2巻).
- (4) 平嶋義宏 (1989) 学名の話 380pp. 九州大学出版会.
- (5) 平嶋義宏監修 (1989) 日本産昆虫総目録 1767pp. 九州大学農学部昆虫学教室.
- (6) 平嶋義宏 (1994) 生物学名命名法辞典 493pp. 平凡社.
- (7) Stearn, W. T. (1992) Stearn's Dictionary of Plant Names for Gardeners. 363pp. Cassell, London.